

# ジャンボ渡辺の学 富士山学

先月カンボジアで開かれたユネスコ世界遺産委員会を傍聴し、富士山の世界文化遺産登録決定の現場に立ち会いました。諮問機関のイコモスが、富士山と一体ではないとして構成資産からの除外を勧告していた「三保松原」が、逆転登録された歴史的な瞬間でもありました。

## 世界遺産決定に立ち会い



渡辺豊博さん

だが、その後、現場写真を含めて説明の多くが、現在の富士山における問題点・改善点についての指摘でした。「山麓の開発により巡礼道、神社、山小屋の関連性が認識できなくなっている。夏の膨大な登山者の来訪と、それを補助するための山小屋、ブルドーザー道、落石防止のコンクリート壁などが富士山の精神的な雰囲気と反している。富士五湖（特に山中湖と河口湖）は増加する観光と開発の圧力にさらされている。建物の規模、建設可能な場所、景観を山麓のホテルを含めてより強気に制限する必要がある」など、現場の実態を把握

## 多くの問題点議論が皆無

したうえで10項目以上にわたる厳しい指摘が続きました。内容を聞き、次に交わされる議論に大いに期待しました。しかし、残念ながら三保



富士山の世界文化遺産登録が決定した直後のユネスコ世界遺産委員会の会場。6月22日、カンボジアの首都プノンペン、渡辺豊博さん提供

松原の応援演説に終始し、約20分間にわたり、19カ国が賛同の意見を述べて逆転登録が決まりました。

問題点が指摘されているのに議論は皆無。おそらくロビ活動の成果だとは思いますが、会場には国や県の関係者だけが参加し、富士山の現実とは隔たりがある、お祭り騒ぎのような軽薄さを感じました。富士山は世界基準に照らし、大変難しい課題を背負ったことを行政や国民は認識しているのでしょうか。

今回、信仰の山として「過去の富士山の価値」が国際的に評価されたことから、ひとつの案として有料道路「富士スバルライン」などを閉鎖し、昔のようにふもとから歩く登拝信仰の山に戻したいと思うのです。これが文化遺産として登録された意味だ

と考えています。富士山は当然「自然遺産」の価値もありますが、環境被害が改善されず、さらに拡大しています。この点も勧告で指摘され、改善への確な対応が厳しく迫られています。

富士山フィーバーが起り、例年をはるかに超える観光客や登山者が訪れています。過剰利用への対策が未整備で、さらに傷だらけの山になってしまっているのではないかと危惧しています。

極端なことを言いますが、しばらく富士登山はやめた方がよいのではないのでしょうか。遠くから眺め、富士山の本質と信仰の文化的な意味を学び、環境問題を認識し、どんな対策が必要とされているのか、富士山再生への管理計画を考えてみてください。日本人の環境再生への現実的な知恵と行動が、国際的な視点から試されているのです。

わたなべ・とよひろ  
都留文科大教授